

草津市立矢倉小学校通信 平成31年3月1日 NO.19



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

行いで示しつづけ、決まり文句を語りつづけること

「これを宝箱にしなさい。大事な物を自分で見つけて入れていきなさい。ときどき、ふたを開けて、そして、一つひとつ点検して、入れ替えるといい。」

小学校に入学するにあたり、父から日曜大工で仕上げた勉強机が与えられた。そんな勉強机は、やがて、あれやこれや、わけのわからない小物であふれかえっていった。本来、引き出しにしまっておくとよいような文具やらおもちゃやらが散らかっていたから、二年生に上がろうとするとき、ちょうど今頃のことだっただろう、見かねた母が宝箱を渡してくれたのだ。そんな宝箱は、整理整頓と、集めて整理するおもしろさを授けてくれた。

「整理整頓は心の整頓、心の準備。今からとりかかることに気持ちよく向かっていけるようにするもの。」

これは、何かにつけてぐずぐずと言いつつ、とりかかると時間がかかる私に対して言ってくれた母のことばだった。「同じするなら、気持ちよく。よろこんでさせてもらいなさい。腹を立てれば、心の鏡が曇るから、仕事もいかげんになってしまう。気持ちよく、さあ、させてもらおうと、よろこんで。」母はこんな言葉もかけてくれた。

当時は、「また、同じことを言っている」とか、「だけどなあ…」と、なかなか素直にできなかった。

今、母は寝たきりとなり、尋ねたことにしっかりと答えられないことが多くなった。なんとも寂しいものだ。あのころの口癖を持ち出して、「こんなことよく言われたなあ。」とつぶやくと、顔をくしゃくしゃにして、うなずいてくれる。若い頃、掃除や洗濯にいそしんでいたときの夢でも見ていたのだろうか、「おかあさん、いそがしいか。」と耳元で尋ねると、「ああ、いそがしい。」とかすれた声で答えてくれる。夢の中では、みんなのことを気遣うようにあれこれと動き回っているのだろう。なんともありがたい気持ちになるから不思議だ。

この歳になると、子どもの頃に教えられた日々の心構え、合いことばのようなものが、ふっと出てくることがある。あらためて、大切なことをしつけておいてくれたものだと、うれしくなってくる。

3月。もうすぐ子どもたちは一つ学年を上がっていく。私たちは、どんな生き方を呪文のようにして子どもたちに授けることができたのだろうか。行いで示し続け、決まり文句を語り続けていくことの大切さをかみしめている。

校長 大林 道範